

大阪・泉佐野から来弘 農業研修はつらつと

リンゴ園 若者9人が体験



てきぱきとした動きでリンゴの剪定枝を回収する研修生ら

弘前市が大阪府泉佐野市と連携して取り組む「都市と地方をつなぐ就労支援力レッシュ事業」の一環で、研修生として来弘した10〜30代の9人が7日、弘前市内のリンゴ園で農業を体験。はつらつとした表情で、剪定枝の回収作業に励んだ。

研修生は就職を希望する若者で、泉佐野で6次産業の基礎を学んでから来弘し、農作業の体験を主体とした2週間のまるかじり（長期）か、見学主体の3日間のひとかじり（短期）のいずれかのコースを選択。将来的な就農先は任意だが、弘前側にとってはリンゴ産業の魅力を県外の若者に訴え、労働力を確保する好機となる。

長期研修生の4人は1日から、イーエム総合ネット弘前（今井正直社長）で選果作業などを体験中。7日は短期の5人が合流し、同

社近くの園地で剪定枝の回収を行った。今井社長は「抜群の働きぶりで驚いた。何人でも弘前に残ってくれれば」と喜んだ。

研修生の1人、永江

則広さん(19)は「すこく楽しい。今までバイトの経験も無かったので、やりたいことを見つけた。弘前は良い街で、住むことが無いとも言い切れない」と

声を弾ませた。この連携を契機として泉佐野市は、ふるさと納税の返礼品に研修先の生産物を使うことを念頭に、弘前産リンゴを採用することし

た。弘前産リンゴの県外の採用は2例目で、市経営戦略部は「大阪での弘前産のPRになれば幸い」としている。

(渡谷紘一)